

鉄道研究部

撮り鉄、乗り鉄、音鉄など様々なタイプの鉄道好きが集う鉄道研究部。和気藹々とした雰囲気の中、最近では“鉄道シミュレータ”の製作にも力を入れています。

会計

メディア情報学部
情報システム学科 3年
西岡英馬さん

部長

デザイン・データ科学部
デザイン・データ科学科 2年
吉田 柁さん

書記

理工学部
電気電子通信工学科 2年
内藤悠貴さん



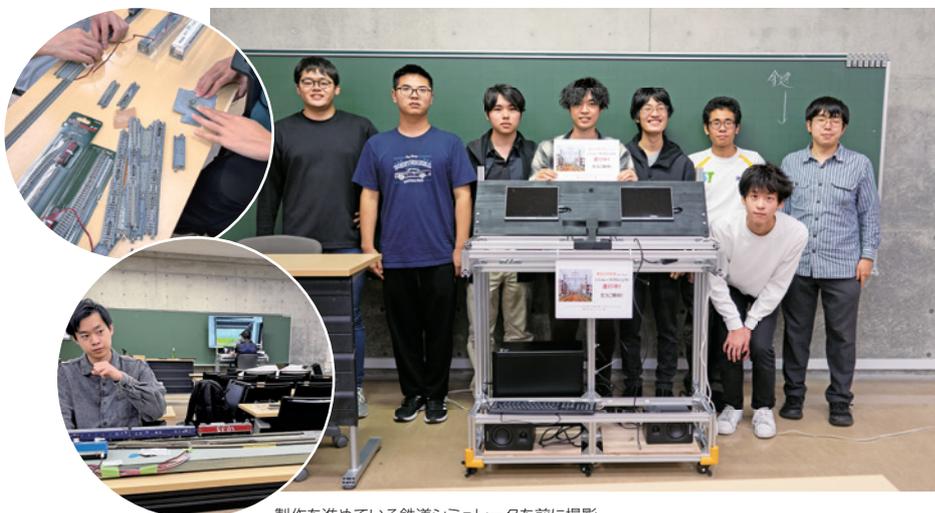
本学での学びが活きる“鉄道シミュレータ”づくり

鉄道研究部は、本学の前身である武蔵工業大学で発足した、60年近い歴史をもつサークルです。現在は理工学部の学生を中心に、約20名が所属しています。鉄道を心から愛している点で共通するメンバーですが、好きなジャンルは様々。撮影好きもいれば乗るのが好きな人もいて、中にはきつぷの収集に熱中する人も。“寝台特急好き”の部長 吉田さんは、新入生歓迎イベントで見た鉄道模型が入部の決め手だったといいます。「模型収集が元々好きだったのですが、イベント会場の教室には馴染みのある“Nゲージ”の模型とともに、高価でなかなか手にすることのできない、大型な“HOゲージ”規格の模型があったんです。さすがは東急グループの東京都市大学! と感銘を受けて、そのまま名簿に名前を書きました(笑)」。

毎週水曜日と土曜日に世田谷キャンパス1号館の教室で行っている活動では、主に鉄道模型のジオラマボードを製作。聞けば4年前の洪水でキャンパスが浸水したときに、鉄道研究部所有のジオラマボードは廃棄の憂き目にあったそうです。“名古屋鉄道好き”の内藤さん曰く「現在は先輩の世代から続く再建の最中で、前世代が基礎を作ってくれたボードの

ディテールを作り込んでいるところですよ」とのこと。今後は駅前の街や川、はたまた“阪急電鉄好き”な西岡さん肝煎りの鉄道公園などのジオラマの建造を進めていくといいます。

また最近では、ジオラマ製作と併せて“鉄道シミュレータ”の製作にも注力。「東急大井町線の鉄道シミュレータを作っています。ソフトのプログラムや運転台となる筐体作り、風景のCGモデリングなどやることは様々ですが、電車のゲームを作るような感覚ですね。大学で学んでいるプログラミングの能力が役立っています」と吉田さんが語るように、“都市大の鉄道研究部”の強みが、活動の幅を広げているようです。



製作を進めている鉄道シミュレータの前に撮影。部長の掲げるプレートには「乞うご期待!」の文字が。